

平成29年度 学校評価報告書

学校名	上野台中学校
-----	--------

1 学校教育目標

自立して夢や志の実現に挑戦する生徒の育成

2 今年度の学校重点目標

- ・ 1人1人が輝ける学校
- ・ 学ぶ環境の整った美しい学校
- ・ 教職員が意欲的に研修し、指導力向上に努める学校
- ・ 保護者・地域と連携した開かれた学校

3 総合的な自己評価

授業においてICT機器の活用が進むだけでなく、主体的に対話的な学びも進めることができた。その結果、生徒から「授業が分かり易いという評価」が多数を占めるようになった。読書活動において、図書室の利用状況は向上しているが、長期休業中の読書時間等を見ると、まだ読書の習慣が定着していないと考えられる。今後も継続して読書活動を推進していく必要がある。自尊感情も、少しずつ高まってきているが、将来の夢を持つこと、また夢への挑戦に関してもまだ少し課題がある。今後さらに、学校教育目標の実現に向け、さまざまな取り組みを行っていくことが必要であると考えます。

4 総合的な学校関係者評価

取り組みの成果が、多くの場面で見られる。特に、授業改善は、大きく進んでいて、生徒にとって分かり易く、また、主体的に学習に取り組んでいる。授業改善だけでなく、組織として、生徒指導の課題に取り組むことで、とても落ち着いた生活環境にあると思える。まだ、不登校生に対する取り組みや小中連携の取り組みは、十分な成果が出ていないところもあるが、今後も今までの取り組みを継続して欲しい。また、地域との連携も、今後さらに進めて行ってほしい。

5 評価結果

		自己評価		学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的、対話的で深い学びとなる授業形態の研究と実践 ・ 視聴覚教材や教育機器などの教材教具の活用 ・ 学校図書館と市立図書館を活用した読書活動の研究 ・ 授業方法を工夫することで、生徒が主体的に学び、対話を通して生徒自ら課題解決を行うことで、知識の活用力を養っていきます。 ・ 授業で電子黒板やタブレットを授業に活用していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業公開月間の実施。2学期に主体的、対話的で深い学びの視点での全教師最低1回の授業公開を実施。 ○大型テレビ、タブレットパソコンを活用した授業 実践も行われ、ICT機器の積極的な活用が見られる。(生徒アンケートで、95.8%が肯定的意見 昨年は56.2%) ○授業中生徒の間で話し合う活動をよく行っている。(生徒アンケートで、95.9%が肯定的意見) ●市立図書館と学校図書館を活用した読書活動の推進を進めつつあるが、まだ不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動を学校全体(多くの教科)に広げるため、全教師による研修が必要。また、学級文庫の充実も行う。 ・各教科で図書室の活用を進める。 	<p>読書をすることで、文章の読解力が高まり、それが自己形成上不可欠なものと思われる。なお一層の取り組みを期待している。</p> <p>授業中に生徒間での話し合い活動が多く見られる事は、アクティブラーニングに実施されていると思われる。</p>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者と連携協力した基本的な生活習慣を身につける取組 ・ いじめのない安心安全な学習環境をつくる取組 ・ 保幼小中連携による、一貫した生徒指導の取組 ・ 生活状況調査の定期的な実施確認を通して、よりよい生活習慣、学習習慣を身につける取組を保護者と連携しながら進めていきます。 ・ 保幼小中連携の取組を通じて、発育段階に応じた基本的な生活習慣の指導を行っていきます。 ※基本的な生活習慣 <ul style="list-style-type: none"> ○時間を守る ○人の話を聴く ○あいさつをする ○提出物の期日を守る ・ 道徳人権教育の取組、いじめ防止基本方針に基づいた取組を推進していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中生徒指導担当の会を学期1回開催し、授業参観及び生徒の情報交換を行った。 ○週1回の生徒指導委員会での情報交換と指導の共通理解により、生徒指導の課題に組織として取り組むことができた。 ○保幼小中連携した基本的な生活習慣、学習習慣について家庭への提示ができた。 ●保幼小中の連携した取り組みの意識が薄くなってきている。問題行動は少ないが、あいさつをはじめ基本的なことができなくなっている。 ●生徒を主体とした学習規律の取り組みについては、52%の生徒が意識しているが、35%はあまり意識しておらず、13%が全く意識していない状況がある。 ●不登校生徒の増加に対する対策が必要である。 ●基本的な生活習慣を身につけるために家庭との連携をさらに進めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA等の会合を通じて、学校の取組内容を積極的に何度も発信していく。 ・生徒会を中心とした、授業規律の取り組みを今後さらに推進していく。 ・生徒の自尊感情を高めると同時に学校での活躍の場をつくっていく。 ・保護者との啓発や連携のために、コメントを寄せてもらったりという双方向のコミュニケーションを取り入れる。 ・保幼小中連携した基本的な生活習慣の再確認。 	<p>不登校生徒の増加けいこうについて、「個人」の考え方や生き方は尊重すべきことであるが、学校生活において「集団生活」や「人としての思いやり」を培う時期でもあると思える。いじめなどの直接的な要因に起因するものでなく、生活習慣などによるものであれば、より家庭との連携を強化すべきであると考えている。今後も今までの取り組みをさらに向上させて欲しい。</p> <p>道徳人権教育については、小中連携の取り組みをもっと進めていく必要があると思う。</p>
研修(資質向上の取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内における研修の実施体制の整備 ・ 小中連携した研修体制の確立と推進の取組 ・ 教職員の校内研修会(道徳人権教育・生徒指導等)を実施します。 ・ 日常的な校内授業公開、小中の授業交流を通じて、授業力の向上に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級経営、道徳人権教育の研修会を実施した。 ○授業公開月間を設定し、お互いの授業を自由に交流することで、授業力向上に取り組めた。 ○同和学習においては、「上野台中」の形が作られてきている。 ○研修に対する職員全体の意識は向上している。 ●積極的な授業公開の中で、授業改善に取り組む学校風土が育ちつつあるが、全体としてこれだけのことは実施するという「上野台中」としての授業の形がまだできあがっていない。 ●小中の授業交流の活性化と具体的な授業の中味における連携を深めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究の中で明らかになったことを整理し、各教科で具体的に実践していく項目を明確にして実践評価を行っていく。 ・小中全体研修会の実施。 ・教科毎の小中連携を深めていく。 	<p>「上野台中」としての授業の形は、ある程度かたまりつつあると思えるが、まだ発展途上であるならば、短期計画での達成は難しい面もあると思える。継続的な取り組みとして引き継いでほしい。</p> <p>今日別の小中学校授業の交流や情報伝達の活性化をはかり、小学校の格差を縮小をはかる必要がある。</p>

<p>保護者、地域住民等との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校開放、学校に関する様々な情報の提供の取組 学校運営へのPTA・地域住民の参画及び協力を推進する取組 <ul style="list-style-type: none"> オープンスクール（年3回）の実施を通して、学校を地域に開き学校改善につなげていきます。 学校だより、学級通信、ホームページ等を通じて情報を提供します。 PTA活動、地域行事（夏祭り）等に積極的に参加し、保護者・地域住民との連携を深めていきます。 地域ボランティアを活用し学校運営への参画をすすめていきます。 	<p>○学期1回のオープンスクールを開催することができた。第2回のオープンスクールでは、ダンス発表会を同時に開催することができた。</p> <p>○学校だより、生徒指導通信の発行とホームページでの公開を行うことができた。</p> <p>○地域行事への生徒会、吹奏楽部が参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●オープンスクールへの参加人数が少ないため、今後参加しやすい工夫を行っていく必要がある。 ●地域ボランティアの活用が図書ボランティア止まりになっており、今後さらに広げていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後もオープンスクールと学年行事等を重ねるなど、保護者の参加を促す企画を考えていく。 地域行事への企画段階からの生徒の参加を計画していく 	<p>保護者、地域住民等との連携においては、地元出身校や地域でのボランティアを積極的に行っている光景が見受けられる。一方で、生徒たちを受け入れる活動を地域ぐるみで取り組んでいく必要もある。</p> <p>地域ボランティアの活用をオープンスクール等との組合わせで、校区内の自然との出会いを取り入れてはと思う。</p>
<p>学力向上指導改善プラン</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着、向上に向けての取組 基本的学習習慣の確立に向けての取組 平成29年度学力向上指導改善プランに沿ってすすめていきます。 	<p>○平日1時間以上の学習をする生徒は、65.0%で目標75%は達成していないが、2時間以上学習する生徒が、学年が上がる毎に増加している。</p> <p>○全国学力学習状況調査において、全教科全国平均では、全国平均を上回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家庭学習習慣の定着において課題がある。特に日常の予習復習の習慣づくりが必要である。 ●読書習慣がまだ身につけておらず、ほとんど読書をしない生徒の割合が50%もいる。(昨年52.6%) 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の手引きの作成と家庭学習タイムの設定を行っていく。 学校図書館の利用の工夫を行っていく。(ボランティアの活用) 	<p>「家庭学習の手引き」の作成し、生徒に活用方法を十分に伝えることが大切であると思える。</p> <p>「学力向上」のためは本人の「やる気」をいかに引き出すかが、課題だと思える。</p> <p>読書活動においては、生徒個々の趣味や興味との結びつきを見つけて出すことも必要である。</p>
<p>生徒自身</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自尊感情を高める取組 将来を見据えて目標や夢を持たせる取組 学校行事、学年行事、生徒会活動を生徒の主体性を尊重し、達成感を持たせていきます。 キャリア教育を充実していきます。 	<p>○「人の役に立つ人間になりたいと思う。」(生徒アンケートの肯定的な回答95.1%)</p> <p>○「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。」(生徒アンケート肯定的な回答91.3%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「自分には、良いところがあると思う。」(生徒アンケートの肯定的な回答62.9%) ●「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。」(生徒アンケートの肯定的な回答62.9%) ●「将来の夢や目標を持っている」(生徒アンケートの肯定的な回答71%) <p>自尊感情・将来の夢ともに肯定的な回答が、少しずつ増加しているが、まだ低いと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員以外の生徒にも、活躍の場を与えられるようにする。 小中連携したキャリア教育を進めて行く。 	<p>生徒自身については、学校行事を通じての活動を見る限り皆んな生き生きと団結力を持って取り組んで様子が見られ、感動すら与えてもらえる。アンケートの中で、将来の夢や目標を持っているとした回答が少しずつ高くなってきていることは、評価すべきだと思われる。さらに、自尊感情を高め、将来を見据えて目標や夢を持たせる。また、自分を大切に人を大切にする心を育てて欲しい。</p>

6 学校自己評価の実施状況について

時期	内容
6月	オープンスクール来校者アンケート
9月	オープンスクール来校者アンケート
10月	保護者・生徒学校評価アンケート(前期)
1月	保護者・生徒学校評価アンケート(後期) 学校自己評価
3月	学校関係者評価

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

7 学校関係者評価委員会の活動について

時期	内容
6月	第1回評価委員会(学校経営方針の説明および依頼)
9月	体育大会視察及び意見聴取
11月	文化祭視察及び意見聴取
12月	第2回評価委員会(中間評価の説明及び意見聴取)
3月	卒業式参加及び意見聴衆 第3回評価委員会(自己評価の説明及び意見聴取)

8 学校評価の公表について

時期	手段	内容	添付
5月	学校ホームページ	学力向上指導改善プランの公表	
11月	家庭への配布	学校評価アンケート前期集計結果(保護者・生徒)	
2月	家庭への配布	学校評価アンケート校旗集計結果(保護者・生徒)	
3月	学校ホームページ	学校評価報告書	

※ 公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います